

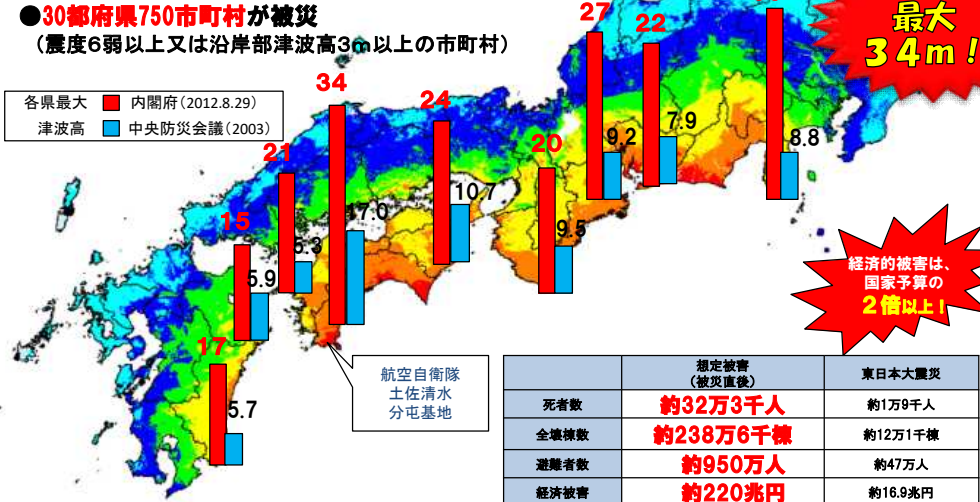
航空自衛隊土佐清水分屯基地整備について【政策提言】

高知県

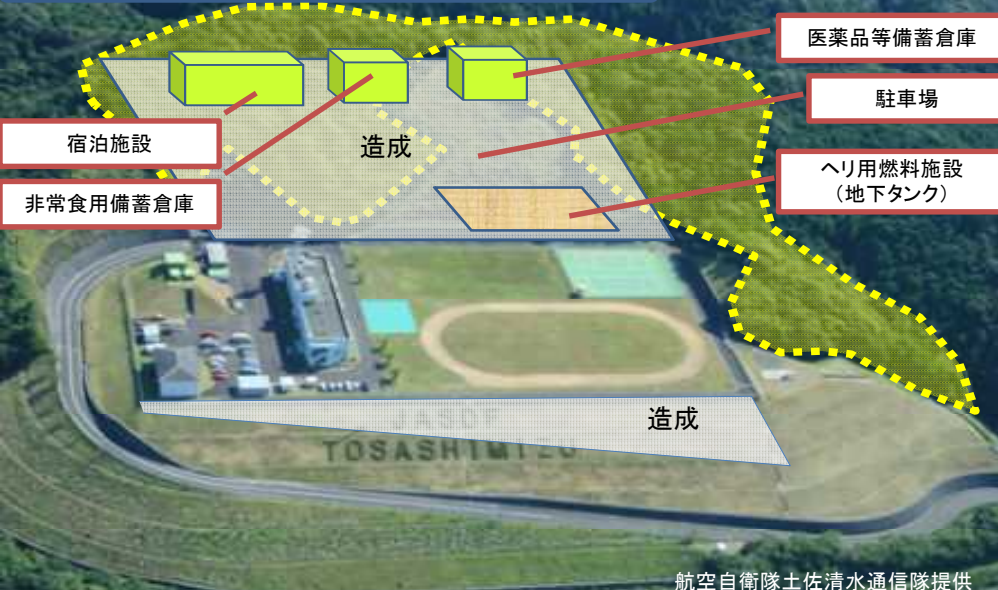
南海トラフ巨大地震による被害想定

●30都府県750市町村が被災
(震度6弱以上又は沿岸部津波高3m以上の市町村)

各県最大 津波高
内閣府(2012.8.29) 中央防災会議(2003)



航空自衛隊土佐清水分屯基地ヘリポート関連施設配置イメージ図



航空自衛隊土佐清水通信隊提供

土佐清水分屯基地

* 四国唯一の航空自衛隊基地 (平成7年3月31日設置)

【業務】

- ・和歌山県串本分屯基地と宮崎県新田原基地を結ぶ通信中継
- ・移動警戒レーダー部隊の受入支援
- ・航空用無線機による通信支援 など

土佐清水通信隊がこれらを担当

【施設】

- 隊庁舎 (業務スペース、居住施設)、ヘリポート、集会所 (講堂) など
- ※緊急物資備蓄倉庫やヘリ用の給油施設は未整備

課題

◆南海トラフ地震発生時、県内各地が孤立のおそれ

- ・特に、土佐清水までの道路啓開日数は17日と想定されており、孤立が予想される地域の中でも厳しい状況
- ・地域地域で応急救助活動や医療活動を展開する必要あり
- ・孤立地域へのアクセスにはヘリによる空路の確保が必要だが、ヘリ用の給油施設は、県西部では黒潮消防署の一カ所 (H29年度整備) のみ

◆自衛隊などによる応急救助活動が必要不可欠

- ・土佐清水市近隣での応急救助活動 (救援物資輸送を含む) は、自衛隊など外部の支援が不可欠
- ・加えて、効率的な活動のためには、一定の燃料備蓄が必要

対策

◆土佐清水分屯基地を拡充

- ・立地を活かした業務を効果的に行えるように、土佐清水分屯基地の敷地を拡充

◆関連施設整備を推進

- ・ヘリ用の給油施設、緊急物資備蓄倉庫などの施設整備を推進

効果

- ◆災害時における迅速な応急救助活動のための拠点機能を確保
- ◆災害対策にあたるヘリの燃料が確保でき、空輸機動力が向上

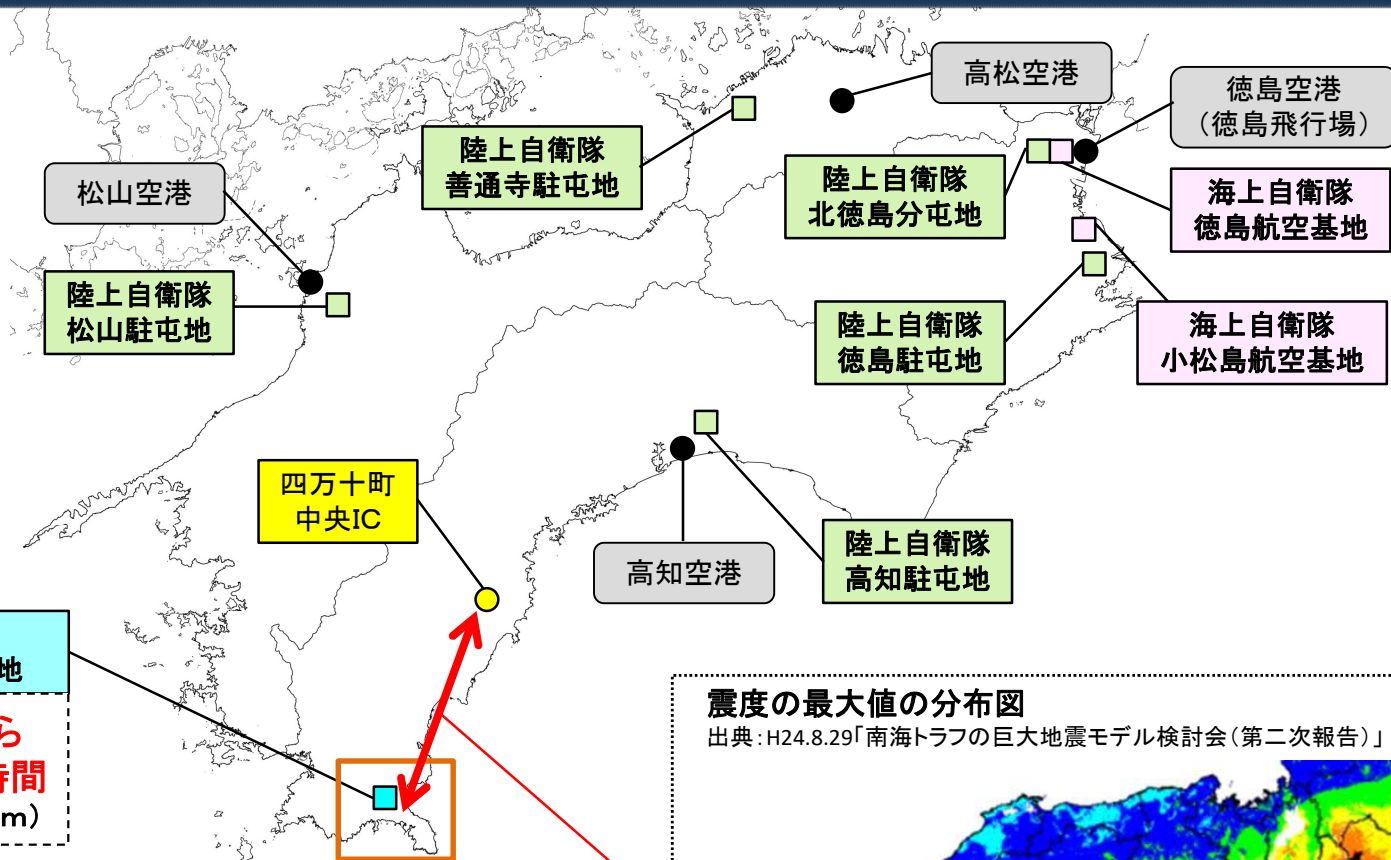
⇒土佐清水市だけでなく、県西部の応急救助活動拠点の一つとして機能

⇒加えて、我が国の西南地域における防衛 (国民保護) 態勢が充実

提言

南海トラフ地震発生時の応急救助活動の必要性を踏まえ、土佐清水分屯基地を拡充するとともに、給油施設や緊急物資備蓄倉庫も備えたヘリポート関連施設を整備することを強く提言いたします。

四国内の自衛隊基地・駐屯地、空港の位置図



航空自衛隊
土佐清水分屯基地

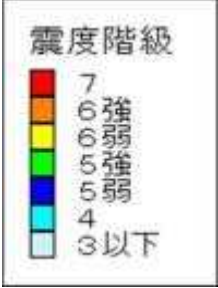
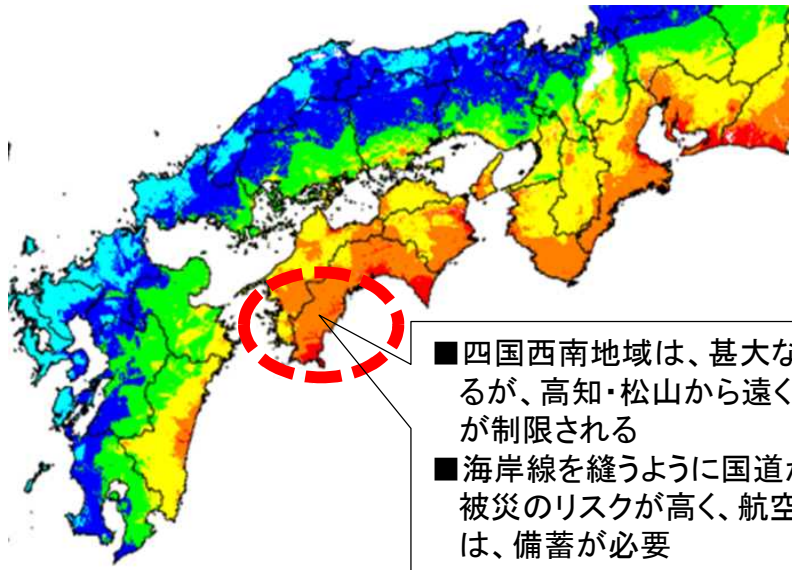
高知・松山から
車で約3~3.5時間
(直線距離 約110km)

土佐清水市までの道路啓開日数：17日
(L2想定：四万十町中央IC⇒土佐清水総合公園)
⇒孤立が予想される地域の中でも厳しい状況

- 道路の被害想定 (L2想定)
- ・ 浸水区間延長 約 13.2 km
 - ・ 落石・崩壊等延長 約 0.8 km
 - ・ 落橋 12箇所

震度の最大値の分布図

出典：H24.8.29「南海トラフの巨大地震モデル検討会(第二次報告)」



■四国西南地域は、甚大な被害が想定されるが、高知・松山から遠く、航空機の活動が制限される

■海岸線を縫うように国道が通っているが、被災のリスクが高く、航空燃料等については、備蓄が必要